

青井記念館美術館

# はぐくみ会だより

第 44 号

平成29年11月 1 日

「未知生々」

大角 勲作

(昭和34年金属工芸科卒)



1 未来、2 生命、3 現代、4 健康、5 繁栄を五角に托し、力強さ、シャープさ、明快さ、調和等をテーマに100周年を記念して、伝統を活かし、未来に向かって時空間と共にあらゆる永遠性を願い金属の持つ特性を造形表現しました。  
(作者のことは)

大角勲は高岡に昭和15年に生まれ、昭和34年に本校金属工芸科を卒業、現代日本を代表する金属造形作家として活躍しました。天地や生命の追求をテーマにブロンズ、黄銅などを素材に作品を制作し、日展、日本現代工芸美術展を中心に作品を発表。日展特選2回、日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞を受賞し、平成15年には第34回日展に出品した《天地守道(生)》で第59回日本芸術院賞を受賞しました。その後日展理事や現代工芸美術家協会常務理事に就任されましたが、平成22年69歳で逝去されました。

# 同窓生ギャラリー

## 第10回青湧会展

4月15日(土)～5月7日(日)

毎年開催10回目を迎え、会員21人と今年度初めての富山大学芸術文化学部 of 学生4人が参加し計70点が出展した。

### 第10回青湧会展を振り返る

………太田紀久雄(昭和33年窯業科卒)

全館貸し切りで開催したので作品が集まるか心配でしたが、会員の皆さんの作品が多くなり、個性豊かな展覧会になりました。そして今回富山大学芸文学部の生徒さん4人に出品していただきまして、感謝致します。



開催中には工芸生120名程、西部中学校美術クラブの生徒12名に鑑賞してもらいました。をしている際、作品に描いている高岡曳山祭の場所がわからないということがありました。丁度曳山絵巻物を持参していたので勉強になればと思います。贈呈したところ、後日校長先生より、生徒さんに色々と作品説明、絵巻物をありがとうございますと電話を頂きました。

今回は高岡市民美術展と開催が同時期だったため、予想以上の入場者があり、大成功に終わりました。皆様のご協力を賜り感謝の一言に尽きます。有り難うございました。

## 工芸建築科同窓会作品展2017

5月14日(日)～6月4日(日)

### 第110回

建築科同窓会会員の親睦を深めるとともに、広く建築技術者育成の大切さ、建築の素晴らしい魅力を知ってもらおうと同窓生の日頃の成果を一堂に展示した。



オープンングセレモニーでは、本校の吹奏楽部の生徒6人がフルート二重奏、クラリネット四重奏を披露した。また期間中に杉江直樹(S53建築科卒)さんによる講座「一級建築士から学ぶ」が開催された。

### 「同窓会展を鑑賞して」

………3年 建築科 高田 知明

建築科同窓会作品展を見学し、大きく2つのことを感じました。1つ目は、どの建築物も同じようなものがなく、それぞれの良さがあることです。例えば、同じログハウスでも木材の色によって部屋の照度や雰囲気の違い、木材と合わせるほかの色によって和風か洋風との異なることが分かりました。また、照明や間取りにもそれぞれのこだわりが感じられました。

2つ目は、自然環境に優しい建築物が多いということです。これから家を設計するにおいて自然と共存できるかが課題です。特に屋上に苔を置く

ことは、とても凄いアイデアだと思います。これからは、自然に優しく住みやすい設計をしていくことが必要だと思います。

### 「一級建築士から学ぶ」に参加して

………3年 デザイン絵画科 石川 歩海

杉江さんのお話を聞いて、初めて知ったことがたくさんありました。

設計士は顧客のニーズ、敷地面積、建物の特徴などを踏まえて自分なりの表現やデザインを取り入れて、いろいろな条件を総合的に考えることが大切であること。顧客のニーズに従うのではなく、建築家(第三者)の目線からアドバイスすることも大切であること。また、予算上の問題、建物の強度や法律上の問題などでニーズに答えられない場合があること。それから、建築に使う素材や部屋の配置など幅広く物事を知っておくことが大切であることなど、多くのことを学びました。

## にく×めめ展

6月11日(日)～6月25日(日)

### 第111回

デジタルによるモノクロイラスト中心の「にく」と、色鉛筆や透明水彩を使ったイラスト中心の「めめ」による2人展。

今回、青井記念館美術館で2人展を開催させて頂くことで、私たちのイラストを多くの方に見てもらいたい機会となりました。また始まる前はとも不安でしたが、期間中に様々なご意見や感想を頂き、大変勉強になりました。

また貴重な体験をすることができました。



### 喜怒哀楽展

8月6日(日)～8月27日(日)

似顔絵やアート作品づくりをしている女性4人のアーティストグループ「Cada」が、人間のさまざまな感情を表現したイラストや抽象画、立体、書など、それぞれの個性あふれる約50点を展覧した。また4人によるイベントパフォーマンスがあり、それぞれの絵柄を組み合わせて「立山」を描き展示した。

石井 和(平成24年工芸科卒)

この「喜怒哀楽くあなたにも感じますか?」は、4人で結成されたアーティストグループによる初めての展覧会です。個性豊かな4人が喜怒哀楽の感情をテーマに思うがまま、それぞれに作品を作り上げました。立体作品や抽象画、書道など幅広いジャンルの作品が並べられました。初日には、ライブイベントパフォーマンスを来館者の前で行い、4人で1つの作品を作り上げました。直接作品を見て感じていただき、沢山の方の反応を頂く事ができ、とてもよい機会でした。



### 夢散歩展

8月6日(日)～8月27日(日)

高岡、射水などで活動する洋画家や写真家、陶芸家の6人がバステルで機械や楽器を描き、独特な心象を表現する「鳥瞰」、社会構造や社会のゆがみを表現した「電車」シリーズなど30点を展示した。

夢散歩会員代表

夢散歩展(つげ義春の作品「夢の散歩」がヒント)がスタートして10回目になります。グループとしての主義主張よりも、各自の自由な発想と表現をめざして集った仲間です。会員の中には各種コンクールに果敢に挑戦しながら自己の表現世界を広げている人、他のグループとも積極的に交流し、新しい刺激を受けることで創作意欲をより一層高めている人、なによりも遊び心を大切にしながら自分独自の表現を模索している人など……。表現手段・絵画、陶芸、写真・はもとより考え方や方向性もそれぞれが違います。

高岡市美術館と隣接していることもあって立ち寄ってくれる人も多く、様々な人たちの感想や批評なども聞けるので大変勉強になります。これからも独創的かつ個性的な作品に会員相互が切磋琢磨し、展覧会の回を重ねていきたいと願っています。



### 作り手の集い展

9月6日(土)～9月30日(土)

長岡造形大教員6人が鍍金、彫金、テキスタイルといったそれぞれの専門領域において作品を展覧した。作り手の集い展を出展して

齋藤晃央(平成22年工芸科卒)

今回自分の母校である高岡工芸高校、そして青井記念館美術館での展示ができたことを大変嬉しく思います。

現在も続けている鍍金領域での作品制作の始まりは、工芸科で学んでいた高校時代です。そうした自分の原点とも言える場所で、展示を通して今の自分の成長した姿を見せることができましたと感じています。

同じく展示を行った同期と、展示に関わって頂きました方々に深く感謝致します。この展示で思い、感じたことなどを糧に、今後の制作活動に励んでいきます。



### 佐藤 愛展

9月6日(土)～9月30日(土)

親子の記念写真や赤ちゃんが満面の笑みを浮かべる表情の作品など300点余りを展示した。

「Untitled-sugar love photography.-」

佐藤 愛(平成21年建築科卒)

今回人生で初めて「展覧会」をしました。いつか自分の作品を展示し、色々な方に見ていただきたいと思っていたひとつの夢が叶いました。

展示会をしてみても、カメラマンとして仕事をさせていたから今まで、とてもたくさんの方との出会いがあったことを目で見えて感じていました。また私のお客様や家族や友人が私が在廊していても足を運んでくれたことがとても嬉しかったです。



観に行ってください方から良かったというお声を聞いてこれからも皆さんがハッピーになれるお写真を撮り続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

## 収蔵作品展 II期

10月8日(日)~10月29日(日)

**「納富介次郎と草創期の指導者」**  
 学校の編成は当初、木材彫刻科、金属彫刻科、鋳銅科、髹漆科の4科に分かれており、それぞれ本科・修業年限(4力年)速成科(同3力年)を設け、別に実習だけ課する選科を置き、生徒数90名、職員9名でした。  
 初代校長の納富介次郎、校長心得の村上九郎作は木彫、波多野秀太郎は絵画、大塚秀之は原型、関義平は彫金、新村弥三郎は描金を担当しました。これらの作品を12点を展示了。



## 収蔵作品展 I期

6月11日(日)~6月25日(日)

**創立120周年記念展**  
 草創期から現代、そして未来  
**「草創期・明治期」**  
 本展は、高岡工芸高校創立120周年を迎え、本校の創立から現代までを作品を通して振り返るという趣旨で企画しました。  
 本校創設27年草創期から明治期では卒業生、教職員らの作品を通し、工芸や美術の発展に貢献した本校の歴史を紹介しました。  
 日本画、彫刻、金工、漆工など34点の展不作品の中には、日本画家の郷倉千鞠(描金科M41卒)や、東京美術学校木彫科教授を務めた彫刻家、畑正吉(木彫科M31・34卒)ら卒業生、明治28年から大正10年まで教師を務めた彫金家、関義平らの作品も並びました。



## 尚美展関連「同窓生作品展」

同窓生作品では、絵画(日本画5点、洋画13点)、彫刻3点、工芸9点、書2点、写真1点、合計30点の見応えのある作品が並んだ。また、PTA作品では教養講座教室での成果を披露した。



10月8日(土)~10月30日(日)



文化部合同展では、陶芸部の他に工芸部系、書道部、写真部など多くの文化部の作品が出品されています。どの作品も製作者一人一人の個性が出ており、部員の作品に対する熱意が伝わってきました。  
 私は、この作品展の中で書道部の作品が印象に残っています。力強さ、なめらかな筆使いが印象的で感動しました。私も、心に残るような作品を製作したいと思いました。

**「文化部合同展に出展して」**  
 陶芸部 三年 二〇 鷹成  
 陶芸部では粘土を使用し、電動ろくろや自分の手や道具を使い製作活動を行っています。  
 今回の文化部合同展の出品にあたり、作品に今の気持ちなどを表現できるかを考えながら製作に取り組みました。電動ろくろでは何回も失敗し、なかなか上手くいかず苦労した、それが逆に風情がでて納得のいく作品に仕上がりました。

生徒たちの日頃の活動の成果を発表する同展に、写真部、クラブ部、美術部、書道部、陶芸部、デザイン研究部、機械工芸部、電子機械工芸部、電気工芸部、建築工芸部、土木環境工芸部の作品が展示された。また、オーブニングでは吹奏楽部のミニコンサートが行われ華を添えた。



## 文化部合同展 2017

7月7日(金)~7月30日(日)

<p><b>お知らせ</b>                  平成29年度 改組新第4回日展入選・出品者 (本校関係者)</p>	
<p>〈洋画〉 顧問 藤森 兼明 (S29年 圖案絵画科卒)                  無監査 谷口 信夫 (S42年 工芸科卒)                  再入選 葛井 保秀 (教職員)</p>	<p>〈工芸美術〉 顧問 藤森 兼明 (S29年 圖案絵画科卒)                  無監査 谷口 信夫 (S42年 工芸科卒)                  再入選 葛井 保秀 (教職員)</p>
<p>〈彫刻〉 准会員 尾長 和夫 (S31年 木材工芸科卒)                  会員 川原 保 (旧職員)</p>	<p>〈写真部門〉 柴田和紀子                  金賞 坂高 史夏                  銀賞 二保 友希</p>
<p>〈デザイン部門〉 茶畑 萌加                  荒井 望実                  蛭谷 萌</p>	<p>〈工芸部門〉 織田峻太郎                  海内 春香</p>
<p>〈書道部門〉 島 健太</p>	<p>〈彫刻部門〉 織田峻太郎                  海内 春香</p>
<p>〈写真部門〉 柴田和紀子                  坂高 史夏                  二保 友希</p>	<p>〈工芸部門〉 織田峻太郎                  海内 春香</p>
<p>〈デザイン部門〉 茶畑 萌加                  荒井 望実                  蛭谷 萌</p>	<p>〈工芸部門〉 織田峻太郎                  海内 春香</p>
<p>〈書道部門〉 島 健太</p>	<p>〈彫刻部門〉 織田峻太郎                  海内 春香</p>

**編集発行**  
 富山県立高岡工芸高等学校  
 青井記念館美術館はぐくみ会  
 住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇番地  
 TEL 〇七六六二二一六三〇(内線611)  
 FAX 〇七六六二二一六三一